

令和5年度全国  
統一防火標語



# 火を消して 不安を消して つなぐ未来

秋の全道火災予防運動 10月15日～31日



## 秋の全道火災予防運動 2023

が、空から乾季は風が強くなる。秋の防火意識を高め、火災の発生を予防し、万一火災が発生した場合、被害を最小限に抑え、安全な避難を確保し、命と財産を守りたい。秋の防火意識を高め、火災の発生を予防し、万一火災が発生した場合、被害を最小限に抑え、安全な避難を確保し、命と財産を守りたい。

# 消防かわら版

令和5年10月発行

### 住宅用火災警報器を 設置しましょう

1 住宅用火災警報器は、平成28年から住宅用火災警報器設置義務化された。設置率は8割を超えている。未だ設置していないご家庭は、早目の設置をお願いします。

### 住宅用火災警報器の お手入れについて

感知器はホコリ等が付くと、1年程度、布等で拭き、1回程度、乾拭きしてください。

- ・有機溶剤を使用しない。
- ・ベンジン・シンナー等）
- ・水洗いはしない。
- ・煙流入口をふさいだり、傷をつけたりしない。

### 作動テスト

警報器のボタンを押すと音が鳴ります。定期的に確認してください。

### 電池交換の時期

- ・電池がきちんとセットされているか？
- ・電池切れではありませんか？

電池切れのときは音で知らせます。ピッピッという音が鳴ります。本体裏側の電池蓋を開け、電池の寿命を確認してください。

本体交換は10年が目安です！お手入れを行い維持管理に努めましょう！



火事と救急は119番 火災等の情報案内は88-1515番  
登別市消防本部・登別市消防署

85-9611

85-2551



# 暖房器具に注意!

ご家庭の暖房器具

大丈夫ですか?



さて、いまの季節、寒い季節が近づいてきます。暖房器具の使用は、火災の原因となることがあります。暖房器具を使用する際は、必ず取扱説明書を確認し、正しい使用方法を守ってください。また、暖房器具の周囲には可燃物を置かず、換気扇を定期的に清掃してください。万が一火災が発生した場合は、すぐに火を止め、消防署に連絡してください。

# 石油ストーブ

石油ストーブは、寒い季節に欠かせないアイテムです。しかし、使用が不適切な場合、火災の原因となることがあります。使用前には、必ず取扱説明書を確認し、正しい使用方法を守ってください。また、石油ストーブの周囲には可燃物を置かず、換気扇を定期的に清掃してください。万が一火災が発生した場合は、すぐに火を止め、消防署に連絡してください。



# 電気こたつ

電気こたつは、寒い季節に欠かせないアイテムです。しかし、使用が不適切な場合、火災の原因となることがあります。使用前には、必ず取扱説明書を確認し、正しい使用方法を守ってください。また、電気こたつの周囲には可燃物を置かず、換気扇を定期的に清掃してください。万が一火災が発生した場合は、すぐに火を止め、消防署に連絡してください。



# 地震対策は大丈夫?

首都圏の地震被害は、毎年約1000億円に達しています。地震発生時の被害を最小限に抑えるためには、事前の対策が重要です。地震発生時の行動を覚えておくことで、被害を減らすことができます。

# 地震火災を防ぐ15のポイント

## 事前の対策

1. 住まいの耐震性を確保する
2. 家具等の転倒防止対策を行う
3. 感震ブレーカーを設置する
4. ストーブ等の周りは整理整頓
5. 住宅用消火器等を設置し、使用方法を確認
6. 住宅用火災警報器を設置する
7. 地震直後の行動をメモし玄関等に表示しておく

## その他日頃からの対策

13. 自分の地域での地震火災による影響を把握する
14. 消防団や自主防災組織等へ参加する
15. 地域の防災訓練に参加する

## 地震直後の行動

8. 停電中は電化製品のスイッチを切り、電源プラグを抜く
9. 石油ストーブやファンヒーターから油漏れが無い確認する
10. 避難するときはブレーカーを落とす

## 地震からしばらくして

11. 電気、ガス、石油器具の使用再開時は破損が無い、近くに燃えやすい物はないか確認する
12. 再通電後は電化製品に異常がないか確認



災害は忘れた頃にやってきます。常日頃から災害に備えることが大切です。